



とらいいんぐる

-TRYあんでる-

皆さん、男女共同参画という言葉をご存知ですか。

薩摩川内市では、平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。

この情報紙は、市民の皆さんと意見の交換をしながら一緒に「男女共同参画社会」を築くことを目標にしています。

今回の特集は…

ウワサの 育 men イクメン パートⅡ!

見聞

それぞれの家庭の
最も良いかたちの
選択をしましょう

男女共同参画 セミナーレポート

六月九日、薩摩川内市国際交流センターで、在福岡米国領事館・首席領事であるマルゴ・キャリントン氏の講演会が行われました。外交官としてフルタイムで働き、二児の母親でもある彼女は、自身が仕事に専念できるのは、家庭で幼い子ども二人を世話する夫のおかげであるとまず語りました。パートナーはいわゆる「専業主夫」でいらつしやるのですが、この「主夫」という呼ばれ方、ご本人は抵抗があるとか。「在宅育児パパ」と呼んでくださいとのこと。確かにニユアンス変わりますね!

アメリカでもかつては「稼ぎ手は夫、家事育児は妻」という役割分担が主流でしたが、経済不況により、女性も稼ぎ手の一人となる家庭が増えてきました。男性だけが主たる稼ぎ手ではない、という認識が広がるとともに、家事育児と、稼ぎ手としての役割とを、その家庭に適したやり方と割合で分担しようという考え方も進んできたのです。たとえば、「自分の時間」を平等に得られるような仕事と家庭生活のスケジュールを立てたり、夫婦のどちらか一方は必ず子どもと一緒にいられるような仕事のシフトを組んだり。

日本はどうでしょう。経済状況

「男女共同参画 世界は“今”～首席領事 講師 マルゴ・キャリントンさん(在福岡米国領事館)



講演中のマルゴ・キャリントン氏

会場の男性から「やはり男性は外で働き、女性は家庭を守る方がいい」という意見がありました。それに対しキャリントン氏は「私は女性が社会に出て働くべきだと主張しに来たのではありません。それぞれの家庭にとって最もよいかたちを選択するのがベスト。」と述べ、多くの人々が頷いていました。仕事にせよ家事育児にせよ、女性の労働力は社会にとって不可欠です。それぞれの家庭においてそれぞれの「かたち」があつていい。大事なのは選択肢があることではないでしょうか。

～自席領事に聞くアメリ 在福岡米国領事館首席



マルゴ・キャリントン氏と参加者